

## 森林ファンドManulife Forest Climate Fundへの出資について

東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長: 広瀬 伸一、以下「当社」)は、米国・豪州等のグローバルな地域を投資対象とする森林ファンドManulife Forest Climate Fund(以下「MFCF」)への出資契約を締結いたしました。本件は、当社初の森林ファンドへの直接投資となります。

### 1. 背景

当社は、2012年に機関投資家として国連責任投資原則(PRI)に署名し、財務情報だけでなく、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)要素も考慮したESG投融資に関する方針を策定しています。その方針のもと、気候関連の要素を投融資の意思決定プロセスに組み込むことで、脱炭素社会への移行や自然資本保全の取組みを支援してきました。さらにグリーン債やソーシャル債等のサステナビリティテーマ型の投資に取り組んでおり、昨年度からは社会的価値創出と経済的価値創出を両立するインパクト投資を開始しています。

今般、こうした取組みの一環として、MFCFに対し、当社として初めてとなる森林ファンドへの直接投資を決定しました。

### 2. MFCF への投資について

MFCFは、森林を投資対象とするファンド業界最大規模の運用額を誇る Manulife Investment Management Timberland and Agriculture Inc.(以下「MIMTA」)によって運用されています。MFCFは、MIMTAのもつ35年以上にわたるグローバルな森林ファンド管理・運営に係る豊富な経験と知見を元に、GHG排出量削減に向けて期待が高まっているカーボンクレジット<sup>※</sup>の獲得を主な目的として森林に投資を行っています。

当社は、社会的価値創出と経済的価値創出を両立するインパクト投資としてMFCFに投資し、MIMTAによる森林運営を資金面からサポートしていきます。また、投資を通じて、森林の伐採間隔長期化の改善や植樹等の森林管理の改善につなげるとともに、カーボンニュートラルの実現ならびに自然資本の保全を支援していきます。

※ カーボンクレジットは、GHG 排出削減量をクレジット化したもので、企業間等で売買することが可能です。MFCF は、森林管理の改善を通じて森林の CO2 吸収量を拡大し、CO2 吸収量の拡大分に応じたカーボンクレジットの獲得を目指しています。

### 3. 今後について

当社は、グループの中期経営計画において「事業活動を通じて社会課題を解決し、サステナブルな社会を実現する取組み(サステナビリティ戦略)」を中長期的な成長エンジンとして位置付け、気候変動対策や災害レジリエンスの向上、自然の豊かさを守る取組みを推進しています。

今後も、SDGs の各目標に対しても積極的に取り組むとともに、パリ協定や昆明・モントリオール生物多様性枠組の目標達成に貢献し、サステナビリティ戦略の推進につながる資産運用における取組みを更に進めてまいります。

## 【森林投資に関連する SDGs目標】

8.働きがいも経済成長も    13.気候変動に具体的な対策を    15.陸の豊かさを守ろう



### 4. ご参考:これまでの当社取り組み

当社は、創業 120 周年の記念事業として 1999 年からマングローブ植林を開始し、未来世代に安心・安全な環境をつなぐ「地球の未来にかける保険」と位置づけ 20 年以上継続しています(2023 年 3 月末累計 12,261ha)。

また、「Green Gift」プロジェクト※として、東日本大震災で被害を受けた宮城県名取市および亶理郡亶理町における海岸林の再生活動をサポートする東日本大震災復興海岸林再生プロジェクトに取り組んでいます。さらに、「未来世代」をステークホルダーとして明確に位置付け、持続可能な環境・社会を「未来世代」へ引き継ぐことを目指し、2022 年 10 月より、環境保護活動「海を守る活動(アマモ場の保全・再生活動)」を本格的に開始しております。

※ 当社は、「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、地球環境保護に取り組んでいます。お客様に「Web 約款」「Web 証券」「Web 更新案内」をご選択いただいたことにより削減した紙使用量の削減額の一部を NGO、NPO への寄付を通じて環境保護活動へのサポートや教育支援を行っています。

以 上